

# 第3学年 道徳学習指導案

平成24年10月17日（水）第5校時

## 1 主題名 人間としての誇り 3－（3）

資料名 「嘆きを感謝に」（出典 埼玉県道徳教育教材資料集「自分を見つめて」）  
[関連内容項目：1－（2）強い意志 2－（5）自他の尊重]

## 2 主題設定の理由

### （1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校内容項目3－（3）[人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見出すように努める。]ことをねらいとしている。人間は誰しも内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せもつことを理解し、人間に絶望することなく、誰に対しても、その人のよさを見いだしていく態度を育てようとする内容項目である。

小学校第1・2学年では、[美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。]こと、第3・4学年では[美しいものや気高いものに感動する心をもつ。]こと、そして第5・6学年では[美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。]ことをねらいとし、これらの積み重ねによって中学校の内容項目に発展している。人間の気高さを理解するためには、素直な心で生命の素晴らしさに触れ、人間の力が及ばないことがあることを知ることが基となっている。人間は万能ではない、だからこそ気高さや強さをもつことができるということを理解させることができる。

コンピューターネットワークによる情報の氾濫。隣り合わせる災害への恐怖。他国との不協和。利害ばかりに目を向けた非道徳的な事件やニュース。命との戦い。そこから生まれる未来への不安。将来を担う子どもたちに投げかけられた問題は山積している。生徒に身近なものとしては不審者の出没、いじめ、人間関係の悩み、携帯電話のトラブルなどが挙げられる。思春期の子どもたちは時に自分の力だけではどうしようもできない問題や悩みにぶつかり、葛藤しながら毎日を過ごしている。意識的にも無意識的にも不安や劣等感を感じる事が日常生活の中に多々ある。その中で、人間とは何か、生きるとはどういうことなのか、悩み、苦しむこともあるだろう。しかしその反面、仲間との絆や他の人のために行動できる強さ、物事を成し遂げたときの達成感など、生きる喜びや楽しさ、人間の素晴らしさや尊さを感じる場面も同じようにある。人間は決して完全なものではない。けれど、それを乗り越え、次の一步を踏み出せる力を備えている。人間は誰しも強さと弱さを併せもった存在なのである。人間らしさとは何か、そのことに気づかせ、誇りある生き方や夢や希望など、喜びのある生き方を見いだす力を育てようとする内容項目である。自分も他の人も大切にしようとする心の育成を通して、人間として生きていくことへの深い喜びに気づかせたい。

### （2）生徒の実態について

本学級では学級目標として3本の柱を立てている。「授業」を大切にしよう、「言葉」を大切にしよう、「和」を大切にしよう。である。4月に立てたその柱を2学期に入ってから意識して生活しようとする生徒が多い。学級委員を始め、どうしたら学級がよりよくなるか、互いがより生活しやすくなるか、自分は周囲のために何ができると考える生徒が多い。実際に生徒のアイディアから実施している取り組みもある。周囲のためにどうしたらよいか考え、行動する力をもっている生徒たちである。

さらに、「人間としての誇り」についてどのように生徒が捉えているか、意識調査を実施した。「人間としての誇り」に関する意識調査（抜粋）【37名・9月実施】

質 問	は い	いいえ	わからない
問3①今までに努力をして何かを乗り越えたことはありますか。	24名 (65%)	13名 (35%)	
問4①今までに努力をしても乗り越えられず、劣等感を感じたことはありますか。	22名 (59%)	15名 (41%)	
問5①自分は人としての「弱さ」をもっていると思いますか。	25名 (67%)	1名 (3%)	11名 (30%)
問6①自分は人としての「強さ」をもっていると思いますか。	9名 (24%)	8名 (22%)	20名 (54%)
問7①自分は人としての「誇り」をもっていると思いますか。	8名 (22%)	5名 (14%)	24名 (64%)

問3①では半数以上の生徒が「努力をして乗り越えたことがある」と答えているが、「いいえ」と答える生徒が10名以上いることには驚くところである。恐らく、これまでそういった経験がなかったわけではないが、それを生徒自身が認識できていないことがこのような結果になっているのだと考える。問4①において「はい」と答える生徒が半数以上いるのもそういった背景があると考えられる。今回の資料を通して人間は誰も強い気持ちを持ち、困難を乗り越えることができる力をもっているということを強調したい。

問5①と問6①では、「弱さをもっている」と答える生徒が25名もいるのに対し、「強さをもっている」と答える生徒が9名にとどまったところから生徒たちの不安や悩みを感じ取ることができた。理由としては「自分に自信がない。」「1人では何もできない。」「すぐに諦めてしまう。」「人をうらやましく思ってしまう。」等、人間であるがゆえに感じる劣等感を多くの生徒が感じていることが分かった。また、「強さをもっている」という生徒の中である生徒は「人を元気づけられることが自分の強さだ。」と答えている。自分を律することだけが強さなのではなく、他者のために行動できることもまた強さである。ぜひ話し合いの中で触れていきたい。

問7①の質問は中学生には少し難しいものである。予想通り、「わからない」と答える生徒が半数以上いた。しかしその中でも8名の生徒が「はい」と答え、「人に生まれて良かったから。」「生まれてきたということは使命を得たということだから。」と書いた生徒が数名いた。この世に生を授かったことに喜びを感じ、その責任を果たそうとする心情こそが誇りである。その等身大の声を話し合いの中で引き出し、考えを深めるきっかけとしたい。

日々の学校生活の中で、間違いを犯してしまったり簡単に投げ出したりしてしまう生徒もいるが、素直な心で何事にも一生懸命に取り組み、他者への思いやりを忘れず、充実した日々を過ごそうとする子どもたちが多く感じる。そこで、人間としての弱さを受け止め、強さを知り、それを自己の自信とし、どのような困難にあっても負けない心情を、本学習を通して育てていきたい。また、関連項目1—(2)、2—(5)の視点から[強い意志で自分の人生を精一杯生きようとする態度][自他を尊重する態度]を身に付けさせたい。本学習を通して子どもたちが少しでも生きることの素晴らしさを実感し、「生」の喜びを感じてくれることを教師として望んで止まない。

### (3) 資料の活用について

本資料の主人公は塙保己一である。保己一は、武蔵国児玉郡保木野村、現在の埼玉県本庄市児玉町に生まれる。幼い頃に病気になったのが原因で両目の視力を失ってしまう。そのような中でも保己一は希望を失わなかった。15歳の時に学を志し、江戸に上がった。彼は目が見えない代わりに、一度、耳で聞いたことは忘れることがなかった。そうして、人が音読したものを暗記することで学問を進めた。そして34歳のときに『群書類従』の出版を決意し、74歳のときに666冊を完成させ、最も位の高い総検校となった。かのヘレン・ケラーは幼少時より「塙保己一を手本にしなさい」と言われて育ち、彼女にとって尊敬する人であったということであった。

保己一は偉業を成し得たが、それらを目の見えない状態で進めていくには想像以上の困難があったであろう。実際には途中で挫け、諦めそうになったこともあったようだが、周囲の支えや本人の

強い意志で乗り越えることができた。保己一の人柄は様々なエピソードから知ることができる。健康に気を遣い、無欲で本を大切にし、人を怒らず、記憶力・判断力・集中力にずば抜けているものがあつた。資料の中でも保己一は苦難に遭遇する。しかし心を乱さず、自分の使命を全うすべく前を向き進んでいく。そして更には自分をさげすむ相手に対しても感謝の意を表すほどであつた。それができたのは、彼が幾度となく繰り返されたであろう苦難から逃げず、一つ一つ立ち向かい、乗り越えることができたからだったのではないだろうか。

保己一の話を知れば知るほど生徒は自分とはかけ離れている偉人の話だと感じるであろう。しかし誰もが人間としての弱さをもっており、保己一もまた例外ではない。事前の指導で彼の心の弱さにも十分に触れながら、その弱さを克服する心情に迫っていきたい。人間は時に自分の力ではどうにもならない苦難にぶつかることがある。そのときに人を羨んだり、人のせいにしたりするのではなく、強い心で自己と向き合い、生きる道を切り開いていく心情を育てていきたい。そして、様々な苦難の中で幾度となく保己一を奮い立たせたものは何であるかを生徒と共に考えたい。

以上の理由により、本主題を決定した。

### 3 ねらい

人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じ、人間として誇りをもって生きようと努力する心情を育てる。

### 4 他の教育活動等との関連

事前指導	・「人間としての誇り」についてのアンケートを実施する。
道徳の時間（1）	・塙保己一やその時代の背景について知識を共有しておく。
道徳の時間（2）	・資料名「嘆きを感謝に」
事後指導	・学校生活の中で、自他を認める言動や弱さを克服しようとする場面を見取り、努力や成長を認める声かけをする。

### 5 学習指導過程

#### （1）前時（1／2）

	学習活動（主な発問）	生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導 入	1 事前に行った意識調査結果を知る。	・意識調査の回答結果を知る。	・意識調査の結果を提示し、本時の方向付けを図り、「人間としての誇り」について考えていくことを確認する。
展 開	2 塙保己一について知る。	・塙保己一がどういう人物かを知る。	・保己一の生い立ち、病気について説明する。 ・『群書類従』について説明する。 ・ヘレン・ケラーについて触れる。 ・生徒が慣れない言葉は要約する。
	3 資料を読む。 4 学習の方向性の確認をする。（柱立て）	・心に残ったところや話し合いたいところを発表する。 ・学習の方向性を確認する。  ・次時は、資料を用いて話し合いをしていくことを知る。	・シートに記入させてから発表させる。 ・保己一の生き方を通して自分の生き方、「人間の誇り」について考えていくことを押さえ、学習の方向性を捉えさせる。 ・次時は、さらに深く話し合っていくことを伝える。 ☆保己一の生き方を知ることで「人間の誇り」について自分の考えをもつことができたか。

(2) 本時 (2 / 2)

展 開	1 前時の学習を想起する。 2 学習の方向性の確認する。	・学習の方向性を確認する。	・前時の学習を想起させる。 ・前時の学習より方向性を確認する。
	3 資料を読んで話し合う。  (1) 悪童たちのからかいに怒る商人をなだめている時、保己一はどんな気持ちだったのだろう。  (2) 「生きている意味はあるのか」と嘆く中、「お導きに違いない」と言った保己一はどのような気持ちだったのだろう。  (3) 前川にどのような気持ちで話をしたのだろう。	・主人公の気持ちを考え、話合いの場面を確認しながら聞く。 ・怒っても仕方がない。 ・相手にしてもらえない。 ・自分には目指すものがある。  ・なぜこんな目にあわなくてはいけないのか。 ・生きている意味はないのではないか。 ・なぜ自分は盲目なのか。  ・天神様が頑張れとおっしゃっている。 ・自分はまだまだできる。 ・これも自分が成長するための試練だ。 ・さらに志が強くなった。  ・おかげで頑張ることができた。ありがとう。 ・弱い自分を乗り越えることができた。	・保己一の気持ちがつかめるよう、間や強弱を意識して読む。  ・目が見えないことについて、保己一自身がどう考えているか触れる。 ・悔しい思いもあるけれど、「学問を目指す」という志は変わらない保己一の深い思いに気づかせる。 ・こういった場面が一度や二度ではないことを押さえる。 ☆志を強くもっている保己一の心情に近づけたか。  ・職人たちや悪童たちに真似されたり水をかけられたりしてからかわれても何も言わない保己一の心情を考えさせる。 ・保己一をからかう周囲の心情にも触れる。 ・鼻緒をたてるものを懇願しているときの心情を考えさせる。 ・手で探り、「さし」だとわかったその瞬間の保己一の心の変容を深く話し合わせる。 ・「さし」を強く握った保己一の気持ちに近づかせる。 ☆困難を自分の頑張りに変えようとする強い思いに気づけたか。  ・「さし」を肌身離さず持っていたことを押さえる。 ・「嘆き」を「感謝」にしたときの保己一の心の変容を考えさせる。 ・なぜ前川にこの話をしたのか考えさせる。 ☆このことを忘れず、困難を乗り越えられた保己一の喜びに気づけたか。
	4 今日の授業について考えたことを書く。	・今日の授業を受けて人間の誇りに関する考えを書く。	・保己一の生き方を通して学んだことをこれからの生活の中でどのように生かしていくかを書くことを通して考えさせる。
	5 教師の話聞く。  6 詩を聞く。	・教師の話と詩を聞き、「人間としての誇り」を考える。	・意識調査の結果に戻り、主人公と同じように強い志で頑張ろうと努力できる人がたくさんいることを紹介する。  ・価値を深める詩を紹介する。

## 6 評価の観点

### ○生徒側の観点

- ・ 友達の考えを聞き、自分の考えを発表することができたか。
- ・ 保己一の立場に立って考えることができたか。
- ・ 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることに気づき、人間として誇りをもって生きようと思えることができたか。

### ○教師側の観点

- ・ 資料の内容・観点は生徒の実態に合っていたか。アンケートの考察は適切であったか。
- ・ 生徒の発表を活かして話し合いを進めることができたか。
- ・ 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じ、人間として誇りをもって生きようと努力する心情を育てる授業となったか。

## 7 板書計画

<p>◎人間には弱さも強さもある。</p> <p>◎人間としての気高さ・誇りをもって生きていきたい。</p> <p>◎自他を尊重していきたい。</p>	<p><b>前川への言葉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おかげで頑張ることができた。</li> <li>・ 弱い自分を乗り越えることができた。</li> </ul>	<p>「生きている意味はあるのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜこんな目にあわなくてはいけないのか。</li> <li>・ 生きていく意味はないのではないのか。</li> <li>・ なぜ自分は盲目なのか。</li> </ul>	<p>「からかわれ怒る商人をなだめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 怒っても仕方がない。</li> <li>・ 相手にしてはもらえない。</li> <li>・ 自分には目指すものがある。</li> </ul>	<p>嘆きを感謝に</p> <p>塙保己一：・ 埼玉の偉人</p> <p>盲目で学問を目指す</p> <p>『群書類従』を編纂</p>
---	--	--	---	---

## 8 備考

在籍生徒数

## 9 資料分析

### 【話題につなげたい場面】

### 【キーワード】

### 【考えさせたい心の内】

